

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	伊万里市立牧島小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が児童全員のことを褒めたり気にかけてあげたりすることができ、わずかな変化でも報告したり相談したりして、早期に対応することができた。 主体的・対話的で深い学びを軸とした授業改善を系統立てて行うことが難しかった。 自他のよさや違いが分かり、尊重しようとする心情や態度を育てることが必要。
2 学校教育目標	よく学び、心豊かで、たくましく生きる「牧島っ子」の育成
3 本年度の重点目標	<p>【知】「確かな学力」の向上を果たす教育活動の推進</p> <p>【徳】「豊かな心」を育む教育活動の推進</p> <p>【体】健康安全な生活を送り、体力の向上を果たす教育活動の推進</p> <p>【特色ある学校】「牧島小学校版コミュニティスクール」の実施</p>

4 重点取組内容・成果指標				5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目				最終評価					
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言		
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師85%以上 ○学期に1回学力向上に対する取り組みのアンケート実施	・令和2年度学力向上評価シートを配布し、教職員間でマイプランを共有すると共に、校内研修等により取り組みの促進を図る。 ・教職員向けのアンケートを実施する。	B	・各教職員でマイプランを立て、それを共有し、その実施に向けて取り組んだ。 ・児童向けのアンケート結果を配布し、各教職員の取り組みについて考察を行ってもらい、今後の取り組みに生かしてもらった。 ・教職員向けのアンケートは1回実施。	B	・マイプランに沿って取組がされている。個人が理解するまでしっかりと教えてもらっていると思う。	学力向上対策コーディネーター	
	○思考力・表現力・判断力の向上	○児童に実施する意識調査で、6月の結果を12月の結果が上回るようにする。 ○「学び合い」を通して考えを深めたり広げたりすることができた」と回答した児童75%以上	・全教科半以上の授業で「学び合い」を取り入れ、主体的に学習しようとする態度を育てる。 ・児童向けの意識調査を年2回実施する。	B	・新型コロナウイルス対策に配慮しながら可能な範囲で「学び合い」を行っている。 ・年度末のアンケートでは肯定的な回答をした児童が86%だった。	B	・コロナ禍の中でできることがよく検討されている。学び合いが6月より12月が上っていて成果が出ていると思う。	学び部	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	・人権意識の向上に努めていると回答した教師が80%以上 ・道徳の勉強のときは人の気持ちや自分のことを考えていると回答した児童が80%以上	・たて割り班活動を年3回以上実施する。 ・「ほかほかタイム」で人権の話をし、「ほかほかたより」を出して保護者にも啓発する。 ・道徳科の授業を週に1回確実に実施し、振り返り活動を必ず行う。	A	・計画期にたて割り班活動に取り組むことができた。低学年の児童は、自分がどの班に属しているかが分かり分かってきた。 ・「ほかほかタイム」を実施した。保護者への啓発はプリントを通してできたが、「心の教育や人権の学習に力を入れている」と答えた保護者は学年によってばらつきがあるが全体で83%だった。 ・人権意識の向上に努めていると回答した教師が86%であった。また、子どもたちは道徳の授業で人の気持ちや自分のことを考えていると答えた児童が92%だった。	A	・縦割り活動や、道徳の授業を通じて心の豊かさ等、しっかりと学べていると思う。	心づくり部	
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	・いじめのないよい学校と回答した児童が80%以上 ・子どものことなど、学校に相談しやすい雰囲気を感じられると回答した保護者が80%以上	・気になる児童や保護者と深く関わりながら、信頼関係の構築に努め、SCやSSC等、関係機関との連携等、積極的な支援を行う。 ・定期的なアンケート(児童・保護者)や教育相談の充実を図り、「いじめ」などの事態を把握し早急に取り組む。	B	・教育相談の担当者が中心となり、気になる児童の保護者へのSCやSSCとの相談へとつながることができたが、アンケートで子どものことについて相談しやすい雰囲気を感じられると回答した保護者が学年によってばらつきがあるが77%だった。 ・心のアンケートを計画的に行い、内容によっては早急に対応することができた。そして、アンケートでいじめのないよい学校と回答した児童は84%だった。	B	・児童への日々の目配りが早期発見・対応につながっている。	心づくり部	
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	・生活科や総合的な学習の時間を中心に、児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・体験活動を中心に、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み、自己の生き方を考え、資質・能力を高める児童が80%以上	・生活科や総合的な学習の時間を中心に、児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等の実施。 ・体験活動を中心に、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組み、自己の生き方を考え、資質・能力を高める児童が80%以上	A	・コロナの影響を受けながらも、地域学習を進めることができた。どの学年も地域との協働的な学びができていた。児童の地域学習への関心も94%、保護者の評価も90%だった。児童の意識調査から、自己の生き方を考え、資質・能力を高めることができた児童が90%以上だった。	B	・児童は、人数が少ない分目標をもって進んでいるのではないと思う。地域等との学びも含めてしっかりとやれていると思う。	研究主任	
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○学習時間、睡眠時間、自由時間を意識した規則正しい生活をしていると自覚している児童90%以上	・定期的なゲーム時間のチェック・アンケート。職員間での情報交換及び全体での指導を行う。	C	・決められた家庭での学習時間を達成できている児童は79%。 ・「早寝早起き朝ごはんなどができている」児童は81%であり、目標には10%ほど足りなかった。また「家の人と決めているゲームの時間が守られている」児童は86%であったが、その設定時間は個人差があるので、長時間ゲームをしている児童が多いと思われる。実際のところゲーム時間が長いと感じられている保護者も多い。今後も継続して取り組んでいかなければいけないと思われる。	C	・オンラインで、ゲームの中でのいじめや夜更かし等見られて残念だ。今からは、ゲーム(スマホ)とうまく付き合う方法を考えるべきだと思う。コロナ禍の中で休養時間の使い方も、学校、家庭とも大変だったと思う。	体育主任	
	○食育の充実	○「早寝早起き朝ごはん」を徹底させ、特に「朝ごはんを食べる」については95%達成を目指す。 ○好き嫌いをなくすだけでなく、手洗いや姿勢などを徹底し、給食時間の充実を図る。	・「早寝早起き朝ごはんの大切さ」についての保健指導を発達段階に応じて行う。 ・6月と1月にももりもりコンテストを実施し、食への関心を高める。 ・栄養教諭、学校栄養士と連携して食に関する指導を年2回行う。	B	・アンケートで朝ごはんを毎日食べる」と回答した児童は、成果指標には届かなかったが93%と高い割合であった。 ・長期休み前に、児童に生活チェックカードを配布し、規則正しい生活習慣の定着に努めることができた。 ・給食週間では、もりもりコンテストや給食に関する放送を行うことで、食事のマナーを振り返ったり、食に関する理解や関心を高めることができた。	B	・学校・家庭での食育がよくできている。	養護教諭	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤推進日の設定 ・会議の縮減、会議時間の短縮 ・退勤時刻の明確化	B	・全職員の時間外勤務時間の平均29時間。 ・学期ごとの通知表記内容を削減したことで、教職員の学期末業務が軽減された。 ・退勤時刻を各々設定し、その時刻までに業務を終わらせようとする風土ができています。	B	・小さな学校でもやることは、大きな学校と同じであろうと思われる。人数が減る中、工夫してできていると思う。先生方の笑顔、元気、健康がそのまま児童に反映するので無理しないでほしい。	教頭	
	○行事の精選、実施方法の見直し	○行事の教、内容の精選を行い、行事実施に関する時間を20%削減。	・行事の前に削減できる部分を検討し、行事の後に削減できた部分が多かったか振り返りを行う。	B	・校内研究に体験活動を関連付けたことで、準備や打合せの時間に対する教職員の負担感が軽減された。 ・2、3月の校内行事を見直し、時数を減らしたり実施時期を変更したりした。	B	・本年は、コロナ禍の中でできる範囲での行事の実施はありがたかった。一方で、小規模校なりに地域住民とのふれあいはできなかったものかとも思う。	教頭	
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価				主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	学校関係者評価 意見や提言		
○特別支援教育	○教員の専門性と意識の向上	○(学校独自成果指標・任意)特別支援に関する専門性が向上した教員70%以上	・特別支援に関する研修会の実施 ・個別の支援計画の作成、ケース会議の開催、情報共有	A	・特別支援に関する専門性が向上した教員91%(研修後のアンケート結果より) ・研修会1回実施 ・ケース会議2回実施	A	・特別支援学級の子供たちものびのびと生活が送れたと思う。		特別支援教育コーディネーター
○牧島小学校版コミュニティスクールの実施	○地域の中の学校づくり	○学校運営協議会の設置 ○学校や地域の「課題」の共有	・学校運営協議会の(1)組織づくり (2)委員の選出 (3)コミュニティスクール推進員の配置完了。 ・学校運営協議会による第1回熟議の実施。	B	・3枝校長を交えての勉強会、コミュニティスクール準備委員会を開催し、組織づくりや来年度の実施計画案を作成した。教職員、保護者、学校評議員にアンケートをとり、コミュニティスクールについての理解度や期待することなどを把握した。	B	(複数意見あり) ・中学校区での区割りには疑問と不安を感じる。 ・地域等中学校区との横のつながりができつつあり、今後どんどんつながってほしいと思う。	教頭	
○体験活動の見直しと充実	○地域と協働し、学びを深める体験活動	○体験活動に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・校内研究を通して年間指導計画の作成や地域素材の教材化などを行う。 ・地域連携会議を年間2回開催し、体験活動のねらい等を地域の方々と共に考える。	B	・2回目の意識調査でも、全ての質問項目において肯定的に回答した児童が80%以上であった。 ・新たな活動も取り入れながら、地域との連携を核とした生活科・総合的な学習の時間の年間指導計画を見直すことができた。	B	・交通安全に対する協力などで地域に貢献できた。特に、牧島ならではの地域との協働、学びが実施できていると思う。	地域連携コーディネーター	
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育									
5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、年度当初予定していた行事や授業形態に制限が生じたが、保護者や地域の理解や協力を得ながら可能な範囲で取り組むことができた。 家庭学習の充実、オンライン視聴時間やルール決めなど、学校と家庭が連携をして改善していきたい。 次年度は、複式学級が2学級となる。教育課程編成、学力向上、教職員の働き方改革等多方面に影響が生じると思われる。これまでの成果を生かしながら、課題解決に取り組んでいく。 								